

## 九頭竜ダム湖内での赤潮の発生について

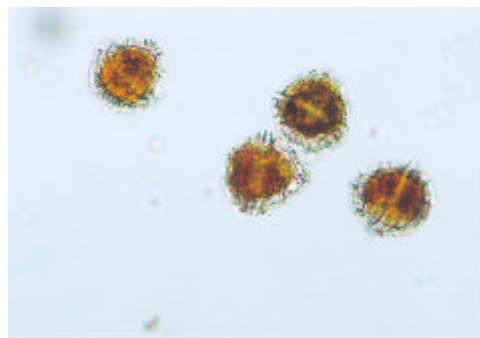
7月10日(日)の巡視中に発見した淡水赤潮の種を同定しましたのでお知らせします。

九頭竜川ダム統合管理事務所が分析を依頼していた(財)北陸公衆衛生研究所の同定結果では、淡水赤潮の種は、「渦鞭毛藻のペリディニウム・ビペス」であることがわかりました。

本種は、5月末真名川ダムで同定された種と同じで、春から夏にかけてよく見られるプランクトンで細胞は卵型、洋梨型又は球形で、大きさは、長さ28~40 $\mu\text{m}$ 、幅25~37 $\mu\text{m}$ で上殻と下殻の大きさは、ほぼ等しい。今回の異常発生については、6月末から7月初めにかけての大雨により栄養塩を含んだ濁水が流入したところに、日照、水温等の条件が重なり、ペリディニウムが異常増殖して淡水赤潮が発生したものと推察され、人体や生物、魚類等への影響を与えるものではないとの見解です。

BOD等の赤潮調査3地点(荷暮川、伊勢川、米俵谷)での水質調査の結果は、BODでは4.9~65mg/L(ダムサイト地点での、平成16年度の平均値では0.9mg/L)と高い数値を示しました。同様にクロロフィルaについても41~520mg/m<sup>3</sup>(ダムサイト地点での、平成16年度の平均値では9.1mg/m<sup>3</sup>)と高い値を示しました。なお、今後プランクトンが減少すれば、これらの数値も定常時に戻ってくるものと予想されます。

以上



ペリディニウム・ビペス